

平成3年度赤潮貝毒監視事業報告 (要 約)

青森県水産増殖センター 中村靖人・秋山由子・田村眞通・浜田船長外 なつどもり乗組員
青森県環境保険センター 三上浩二・古川章子・高橋政教
青森県水産試験場 涌坪敏明・伊藤欣吾・小田切譲二
高井開運丸船長外 乗組員
村上東奥丸船長外 乗組員
磯島青鵬丸船長外 乗組員

調査結果の要約を以下に示す(詳細については平成3年度赤潮貝毒監視事業報告書(赤潮・貝毒調査),
平成4年, 青森県 発行 に報告する)。

1. 平成3年の本県沿岸におけるホタテガイの出荷自主規制期間は陸奥湾産垂下養殖貝が3月23日～9月21日(9月21日付け解除)、陸奥湾産地まき貝が5月11日～9月6日(9月6日付け解除)、津軽海峡西部産垂下養殖貝が7月12日～8月14日(8月14日付け解除)であった。
その他の海域は出荷自主規制は行なわれなかった。
2. ホタテガイを除く二枚貝の出荷自主規制期間は、暖流系海域産付着性二枚貝(ムラサキイガイ等)が3月16日～9月10日(9月10日付け解除)であった。暖流系海域産潜砂性二枚貝及び寒流系海域二枚貝の出荷自主規制は行なわれなかった。
3. 陸奥湾西湾における垂下ホタテガイの毒力は低い水準で推移し、年間最高毒力は平成元年と並び過去最低の1.5MU/g(下痢性)であった。同様に、東湾における垂下養殖貝の年間最高毒力は昭和60年及び平成2年について低い1.0MU/g(下痢性)であった。地まき貝の年間最高毒力は西湾が0.75MU/g(下痢性)、東湾が1.5MU/gであった。
4. 外海域産のホタテガイで規制値以上の毒力が検出されたのは津軽海峡西部産垂下養殖貝のみで、その年間最高毒力は1.0MU/g(下痢性)であった。
5. ホタテガイを除く二枚貝で規制値以上の毒力が検出されたのは暖流系海域産付着性二枚貝(ムラサキイガイ)のみで、その年間最高毒力は0.3～0.5MU/g(下痢性)であった。
6. まひ性貝毒は各海域、各貝種とも規制値を越える毒力は検出されなかった。
7. 陸奥湾東湾における D. fortii の出現数は低い水準で推移し、その年間最高出現数は320細胞であった。西湾における D. fortii の年間最高出現数も例年より少ない545細胞であった。
8. 陸奥湾における D. acuminata の出現数は記録的に多く、年間最高出現数は西湾で1060細胞、東湾で1130細胞といずれも過去最高を記録した。
9. 今年は沿岸での A. tamarense の出現がほとんど見られず、津軽海峡東部及び太平洋で10～70細胞の出現が見られたのみであった。沖合域では6月に最高700細胞の出現が見られたが、本県への接岸は見られなかった。